



医療職を目指す新入生の皆さんへ

医学部長 玉置俊晃

新入生の皆様、徳島大学医学部入学おめでとうございます。皆さんは大学入試を突破し医学部に入学されたので、将来の人生の方向性がかなり明確になり、希望に燃えていることと思います。是非、この人生の大きな節目に、皆さんのこれまでの生活を少し振り返っていただき、さらに一度は、これからの大学生活を真摯に考えてみて下さい。新入生の皆様が素晴らしい大学生生活のスタートをきって、徳島大学医学部において有意義で充実した楽しい学生生活を送って下さることを、私は期待しています。

徳島大学医学部には、医学科、栄養学科、保健学科の3つの学科があり、何れの学科に入学した新入生も将来は、医療・医学や福祉を担う医療人として専門的な知識や医療技術を提供して社会に貢献することになります。現在の医療人は、社会より多くの能力が求められています。すなわち、知識のみならず技術や態度も求められています。20世紀後半からの生命科学や医学に関する情報の爆発的な増加と医療機器の高度化により、医学・医療の専門知識や技術を習得するための医療系学科のカリキュラムは非常に過密になっています。しかし、医学・医療の専門知識や技術を十分に身に付けただけでは、医療人や医学者として十分な活躍は出来ません。最近流行の言葉で言えば、医療人には知識や技術を含めた「人間力」が必要です。現代の高度先進化した医療やとてつもない速度で進歩していく生命科学の研究分野では、一人の医療人の力で出来ることは限られており、多くの医療人が連携・協力してチームとして仕事をすることが必要です。又、医療や福祉を受ける患者さんとの良好な人間関係が構築できなければ、医療人が習得している知識や技術を患者さんの健康や病気治療のために活用し安全で有効な医療は期待できません。医療活動や研究活動にて医療人が、各自が

持っている知識や技術を有効に発揮するには、体力・コミュニケーション力・気力・知力・実践力などの総合された人格的能力が不可欠ですし、社会からも求められています。大学時代は、皆さんの「人間力」を鍛える最も大切な時期であると、私は考えています。

新入生の皆さんの中には、他人との接触を鬱陶しく感じてテレビゲームやインターネットに多くの時間を費やしている学生さんはいませんか？受験競争を勝ち抜くために、教科書や参考書ばかりに目を向けていませんか？休みには、テレビばかり見ていませんか？医学部入学を機会に、テレビゲームやインターネットでモニター画面に接する時間を少なくして、人と接する時間を多くしませんか？積極的にクラブ活動やボランティア活動などの課外活動に参加することにより、新しい仲間や先輩・後輩との出会いが生まれ、皆さんの人間力を鍛える機会が増えるでしょう。また、新しい仲間と人生を大いに語り天下国家を議論してみてください。皆さんの人間力が高まるだけでなく、大学生活自体が豊かになると思います。大学生活で人と接する時間を多くするためには、大学のクラブ活動に参加することが最も早道です。特に、体育会系のクラブに所属することにより、チームワーク、コミュニケーション、礼儀作法などが鍛えられるだけでなく、医療人として活躍するとき不可欠な体力も鍛えられます。医療人になる学生が学業に励むことは当然のことですが、学生時代に学業以外の活動にも多くの時間を自分自身に投資してみてください。この投資は、将来の皆さんの人間力としての財産を形成し、医療人としての質の向上に大きな役割を担うように、私は感じています。特に、学生時代に築いた人間関係は、一生の宝になります。徳島大学医学部に入学した機会に、是非、良き友を作って下さい。



新入生諸君へ

医学科長 永 廣 信 治

医学科は、6年間にわたり基礎・臨床医学を中心に学びます。将来良き臨床医や医学研究者となるために、医療人としての基本的な姿勢や知識、教養を身につけなければなりません。1年生は共通教育で基本的な教養を学び、2年生から基礎医学の授業と実習があります。3年生では基礎医学の修得と、午後は約1年間にわたり希望した研究室に所属し、実際に医学の最先端研究を行います。4年生は、臨床の各臓器別の講義やチュートリアル教育（小グループに分かれ討論形式で課題に取り組み、自学自習の習慣を身につける）があり、5年生から、各診療科を2-4週間ごとにローテーションし、参加型臨床実習を行います。学外の第一線病院で、1-2カ月臨床実習を行うプログ

ラムもあります。医療・医学は日々進歩しており、6年間で学ぶ知識には限界があります。私たち医療人は一生涯勉強し続ける宿命にあることを覚悟し、学生時代にその礎となる強い心と体を作りましょう。そのためには1年生の時から、しっかり目標を持って自学自習の習慣を身につけ、読書をして心と教養の幅を広げ、運動部に所属し体力と知力、気力、コミュニケーション能力を鍛えなければなりません。チーム医療が重要視される中、医師だけの自己中心的な考え方は今や受け入れられません。“One for all, all for one”の精神を養うために、全員がサークル活動特に運動部に所属し、文武両道を目指しましょう。どんなに忙しいスケジュールがあろうとも、サークル活動の時間を作ることはできます。



栄養学科へようこそ

栄養学科長 武 田 英 二

この度は徳島大学医学部栄養学科へのご入学をこころからお喜び申し上げます。医学部歯学部附属病院を有し、疾患の予防から治療にいたる最新の栄養学を勉学できる恵まれた環境にあります。とくに臨床栄養学、分子栄養学、代謝栄養学、実践栄養学、生体栄養学、食品機能学、予防環境栄養学の教員は日本のトップリーダーで、興味深い授業、実習および卒業研究を通してすばらしい指導を受けることができます。栄養学科は教室間の教員、大学院生、学部学生とともに仲が良く、励ましあいながら夜遅くまで勉強や研究を頑張ったり、社会で活躍して

いる先輩の話を聞いたり、将来の夢を話し合ったり、阿波踊りを楽しむ等の交流の機会が多く、これらを通して交友関係を深めたり自分を磨くことができます。このような環境で、1964年の創設以来、2,200人以上の卒業生を輩出し、70人以上の大学教授、外国研究所で活躍する若い研究者、病院での管理栄養士、企業での商品開発、行政での健康増進活動、日本栄養士会活動をとおして栄養学分野をリードしています。新入生の皆様、恵まれた環境で青春を満喫するとともに大きな将来の夢や自分の可能性を育ててください。



新入生の皆さんへ

保健学科長 二 宮 恒 夫

専門家への道を一步あゆみ始められたこと、心よりお祝い申し上げます。これからの学生生活は長いようですが、「終わってしまうとあっという間だった」との感想を卒業生のほとんどが漏らします。大学生活を楽しみながら、心の中に「専門家になることとは」といつも問いかけ、一日を大切に歩んでもらいたいと思います。

これから専門の知識を身につけ、国家資格を得る実力を備えるようになることはもちろんです。その他に、専門家として活躍するためには、相手を思いやるマナーと正しいことを行うという倫理観を培うことが大切です。これらのことはごくあたり前のことですが、最近では欠落しているようなニュースにしば

しば出会います。マナーと倫理観は、講義の場だけではなく、同僚、先輩、クラブ活動、教員等との対人関係の中で培われていくものです。教室以外の場も多いに活用して下さい。また、専門に関係した本やニュースの内容に敏感になって、その話題に対する自分の考えを創ることによって、専門の学問への興味もふくらむことと思います。

街角で「あなたの望みは」とインタビューすると、多くの人が「健康でいたい」と答えています。その多くの人の望みに、生涯にわたりかかわっていくこととなります。自分の選んだ専門の道に自信をもってゆっくりと歩んで下さい。卒業のとき、徳島大学で学んでよかったと誇りに思ってもらえるよう、私も教員は心がけたいと思います。

■ ■ ■ 新入生の皆さんへ ■ ■ ■



医学科4年 杉田 真理

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長い長い受験勉強からやっと解放されて、ホッとしているところでしょう。これから本当に楽しい大学生活の始まりですね。

高校生までの生活と大学生活で一番大きく違う点は、大学生活では、自分にやる気さえあれば、自分の世界をどこまでも広げていけるという点だと思います。世の中にはいろいろなヒトの集まりがあって、各々意欲的な活動をしているため、そこに参加して有意義な活動をするのもすごく良い経験になるでしょう。

大学生になると、いろいろな店でアルバイトが出来るので、少しでも興味があればどんどんバイトさせてもらいましょう。また大学内でも講義などで魅力的な先生を見つけたら、話しかけに行き研究室に出入りさせて貰うのもいいでしょう。一年生でも歓迎されることが多いし、早くから医学に近づく事が出来るでしょう。また、旅行に行くのもいいと思います。旅先でその場所独特のものを見たり、現地の人と話したりすることで、新たなものの見方が出来るようになるでしょう。

最後に、私はこれが出来なくて今、後悔しているのですが……。受験勉強で培った英語力を落とさないようにしましょう。医学科の人はその力を上手に医学英語へもシフトできるように、一年生の時から英語に触れ続ける事が大切です。ではみなさん、大学生活を思いっきり楽しんでくださいね。

保健学科看護学専攻4年
笹本めぐみ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。長かった受験も終わり、新しい生活への期待とともに不安でもいっぱいでしょう。

大学生活ではこれまでとは違い自由な時間が多いかと思いますが、今ある時間を大切に、勉学はもちろん、部活動やバイト、遊び、趣味などを有効に取り入れていってください。そして4年間という長そうで短い学生生活を、自らの手で有意義なものにしてください。

保健学科検査技術科学専攻 4年
藤井美佑紀

ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活では、勉強はもちろんですが、“今しかできないこと”も山ほどあります。学業には適度な緩急をつけて取り組み、沢山ある自由時間でそれらをできるだけ多く経験してください。人生の貴重な財産となるはずですよ。皆さんが素敵な大学生活を送れるよう、心より願っています。

栄養学科(平成21年3月卒業生)
井手佳菜子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

この日を迎えるまで、苦しい経験や辛い思いをしたこともあったかと思います。それでも、大学でのキャンパスライフを想像しながら、自分の目標に向かって努力した甲斐あって、今日からここで新たなスタートを迎えられる皆さんを、心から祝福したいと思います。

新入生の皆さんを見てみると、私自身が4年前に不安と期待を抱きながら、遠い故郷を離れて一人徳島に来たときのことを思い出します。

大学での授業やイベント、サークルなど全てが新鮮で、とても楽しみな反面、見知らぬ街での一人暮らしにも不安を感じていたし、クラス全員初対面で、自分はこの先仲良くやっていけるのだろうかという焦りもありました。

しかし、そんな不安はすぐに消え、入学後初めての大きなイベントとなる五月祭では、クラスが一丸となって出店してみごとに優勝することができ、とても印象深い思い出になりました。

この4年間を通して、たくさんの人と出会い、様々な価値観や考え方を知ることが出来ました。お互い知恵を出しながら考えたり、励ましあって勉強したり、時には叱られたりすることもありました。辛くて全てを投げ出したいと思った時、友人がかけてくれた言葉が、私にとっては忘れられないものとなっています。

大学では幅広い人との出会いがあると思います。人との交流を大切に、人づきあいの中でたくさんのことを学んでほしいと思います。

保健学科放射線技術科学専攻4年
片岡 弘行

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長かった受験生活も終わり、これからの大学生活に期待をふくらませていることと思います。

大学では高校とは違い自由な時間が大幅に増えます。最初のうちは戸惑うことがあるかもしれませんが、勉強や部活、アルバイトなど自分のやりたいことにどんどんチャレンジしてください。

また、大学内外に関わらず多くの人に出会うことになると思います。より良い人間関係を築くことは医療に携わる者として非常に重要なことだと思うので、その出会いを大切にしてください。

時間は有益です。卒業するときに自分が経験してきたことに自信が持てるような大学生活を送ってください。

施設紹介

医学科

環境病理学分野 教授 泉 啓介

基礎医学の新しい講義室と実習室

平成20年4月に基礎B棟、基礎医学講義棟の改修（第3期工事）が終わり、基礎B棟東には固有の床面積はやや縮小されたものの解剖学、病理学、法医学の計5分野が元いた場所に戻っている。エレベーターホールを挟んで反対側の基礎B棟西は下記のようになっている。

- 5階：コンピューター室・組織病理実習室（115名）
- 4階：チュートリアル室10室、5年生新自習室（24名）
- 3階：チュートリアル室2室、基礎第三講義室（60名）、基礎第四講義室（60名）、6年生新自習室（48名）
- 2階：病理カンファレンス室（45名）、臓器保管室、基礎第二講義室（128名）
- 1階：法医解剖室、基礎第一講義室（120名）

コンピューター室と組織学・病理学実習室は兼用している。今年度から共用試験C B Tを1日で済ますことができるようになっている。チュートリアル室はカリキュラム上3年次と4年次が重なる時期がなくなったので24室から計12室に減らしている。3階の2つの講義室は主として栄養学科が使用している。臨床と病理の剖検検討会に使用している病理カンファレンス室

では電子カルテを利用することができる。旧自習室、図書館に加えて新たに3階・4階に自習室を作ったことにより4年次以上のほとんど全員の自習室が確保されている。



▶
コンピューター室
・組織病理実習室



◀
基礎第二講義室

栄養学科

実践栄養学分野 教授 酒井 徹

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんは、1年次は主として常三島キャンパスで学び、2年次より蔵本キャンパスで本格的



栄養学科棟正面に記された“食律生命”の文字

に専門の講義・実習を受けることとなります。まだなじみが薄いと思いますので、簡単に栄養学科棟の設備について紹介をしたいと思います。現在の建物は平成15年に改装されました。まず、栄養学科の入り口付近で“食律生命”と記された文字が目に入ります。これは、栄養学科設立で尽力された児玉桂三学長が記されたもので、食は生命や健康の根幹であることを説いたもので、栄養学を学ぶこと、栄養学研究の重要性を示したものです。栄養学科棟1階は実習室で、ここでは生理学、生化学、食品学などの基礎的な科目から臨床栄養学、応用栄養学、給食栄養管理等の応用的な科目までの全般的な実習が行われます。2階は、自習用の部屋やセミナー室、そして栄養学科で共通使用する研究機器室があります。3～5階は各研究分野の研究室となっていて教官および学生が日夜研究に勤しんでいます。みなさんが、このスペースに本格的に出入りするようになるのは、4年生で卒業研究スタートさせる時となります。研究スペースの特徴としては、平成15年の改装を機会にオープンスペースの形式をとっています。従来は、各研究分野が別々のスペースに分かれていましたが、仕切りがなくなって各研究分野間の交流がしやすくなっています。最後に、栄養学科の研究施設は充分充実してきました。この施設、そして教員(?)を十分活用して、高度な技能・能力を備えた管理栄養士、研究者となることを願っております。



▲ 1 F 生理学実習の風景(上)と 集団給食実習室(下) ▲ 2 F 自習室(上)と 臨床研究を行う実験室(下)



3～5 F 研究室の実験機器と実験風景

保健学科

医用画像機器工学分野 教授 吉永 哲哉

保健学科の施設及び設備に係る最近の整備状況を紹介します。学科設立時からの懸案であった教育研究スペース狭隘の問題が、昨年度から今年度にかけての建物改修により解消されつつあります。

まず、旧第五病棟を昨年度に改修し、保健学C棟として利用できるようになりました。6つの共用講義室と2つの学生演習室を配置し、学生実習及び大学院研究のための看護学総合実習室、医用情報科学実習室、先端検査研究実習室などを新規に整備しています（写真は、竣工前の棟内）。また、保健学A・B棟に学生研究室のスペースを確保できたことで、卒業研究の快適な自習環境の実現が可能となりました。1階の100名収容講義室には遠隔講義システムを導入し、多様なメディアを利用して行う授業により、蔵本・常三島キャンパス間での合同授業を実施できます。看護学専攻では、教護教諭免許状取得のための教職

科目の受講に本年4月から活用予定です。

次に、耐震補強と教育環境向上を目的としてB棟の改修工事を今年度実施し、後期後半には完成する計画です。1階の放射線技術科学専攻の実習室には、最新のマルチスライスX線CT装置・デジタルX線装置各1台、及び一般撮影用X線装置3台を新規に導入し、高度な内容の実習が期待できます。3・4階には、看護学専攻の実習室及びセミナー室を整備し、病院の形態や特殊機能を模擬した設備を実習室に設け、教育効果の高い学内実習の充実を図ります。5階には、検査技術科学専攻の実習室が5室整備され、測定室や機器室を設け、学内実習と卒業研究の同時進行が可能となります。

保健学棟の教育研究環境の整備が進み、保健学科の更なる発展のための基盤になると期待しています。



講義室



自習室



実習室

地域医療について

地域医療学分野 教授 谷 憲治

地域医療学分野は平成19年10月徳島県の委託事業による受託講座として徳島大学大学院に設置されました。県南の地域基幹病院である県立海部病院内に研究拠点として地域医療研究センターを置き、地域医療の活性化を目指した様々な研究に取り組んでいます。教授と助教の2名でスタートした教室ではありますが、平成21年4月から卒後3年目の医師一名が大学院生として加わることになりました。徳島県内の病院に勤務して地域医療に貢献しながら総合診療を学ぶとともに、本分野において社会人大学院生として地域医療に関する研究によって学位取得を目指します。その他にも当教室の研究員として地域医療の診療、研究および教育に関わってくれる先生も予定されており、徐々にではありますが当教室を拠点とし地域医療に貢献する情熱をもった人材が集まりつつあります。人材育成という面では、徳島大学医学部教育において地域医療および総合診療を学ぶ実習と講義が平成20年度から大幅に導入されました。5月から7月にかけては8週間の選択制の実習（臨床体験実習・実践医学実習）が行われ、5、6年生11名が徳島県内において地域医療実習を経験しました。さらに9月からは5年生全員が臨床実習クリニカル・クラークシップの中で海部郡内の医療施設における実習を実践しています。患者さんや家族の方々と触れ合う「エスコート実習」、離島での訪問診療、一人診療所での奮闘現場、介護施設などでの心の触れ合いを通して、「地元の方の生の声を聞くことができた」「皆さんが頑張って住民の健康と安心を支えていた」「将来の選択肢になった」などの感想をもらっています。医学科学生によるサークル「徳島大学医学部地域医療研究会」



は地域医療に関心の高い医学生によって結成され、平成21年1月現在38名のメンバーが在籍しています。彼らは様々な医療施設や介護施設の現場を視察することで、地域における医療・介護・福祉の仕組みへの理解を深めるとともに、将来の自分自身のキャリアデザインに役立てています。このような医師確保や学生教育への取り組みが徳島県の地域医療における医師不足の現場に反映される時期はまだ先のことになるとは思います。しかし、医学生や若い医師に対して地域医療や総合診療に触れる機会を与えることでその関心を高め、若い力が地域医療を活性化し、最終的には徳島大学の卒業生の中から将来地域医療に情熱を燃やす医師が一人でも多く輩出されることを期待し、努力していくつもりです。皆様方のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。活動の詳細は教室HPをご覧ください→ <http://www.tiiki.umin.jp/>

先輩からの医学部紹介！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

これから始まる大学生生活を大いに満喫し、充実したものにしていきたいと思えます。
そこで、ここでは大学生活の一部を紹介しています。新しい生活の中で少しでも役立てていただければと思います。

部活動、サークル活動について

医学科 4年 大浦 雅博

部活動、サークル活動について紹介したいと思います。
新入生の皆さんの中には、大学生活といえば部活動、サークル活動と思っている人もいるのではないのでしょうか？大学には高校などよりも多くの部活、サークルが存在します。

運動系・文化系どちらもたくさんの部・サークルがあるので興味を持った所にどんどん見学にしてみてください。先輩達が親切にいろいろと説明してくれるはずですよ。まずは見学してそれから自分の入りたい所を選んでください。

部・サークルに入ることによって大学生活での自分の趣味を見つけられるだけでなく、他の学部・学科の友人や先輩との関係も築くことができ人間関係の幅が大きく広がります。また、先輩から生活面、学習面など様々な面での相談にのってもらえたりすることも大きな利点です。何かと大変なことの多い大学生活において同じ活動をする仲間や先輩がいることはかなり心強いものになるはずですよ。



また、普段の活動以外にも各部・サークルごとに様々なイベントも用意されているので大学生活が非常に充実したものになるでしょう。

もちろん、勉強との両立を図ることは大変なことではありますが、入って損はないはずですよ。是非自分の気に入った部・サークルを見つけて参加してみてください。

授業について

栄養学科(平成21年3月卒業生) 安倍 知紀

1年生は各自で選択することができる一般教養と各学科ごとに決められた専門科目を受けなければなりません。一般教養は4つの分野に分類されており、理・文系科目をバランスよく受講します。講義を選択する際には、シラバスに記載されている講義内容を読み興味があるものを積極的に選択していくとよいと思います。受講する講義を選択できるということからもわかるように、大学では学生自ら学ぼうという気持ちが大切です。積極的に受講し学んだことは、必ず自分の将来に生きてきます。私は生化学に興味がありましたので、理系科目は生化学関連のものを多く受講しました。一般教養といっても高校の生物や化学の授業とは異なり、毎回最新の科学誌からトピックスを抜粋して紹介して下さる講義や講師の先生の研究テーマについての講義といった、大変専門的な講義が多く設定されています。言うまでもなく専門的であるということは文系科目にも当てはまることであり、文系科目の苦手な私には少し難しく感じるものがしばしばありました。それでも講師の先生に質問すれば納

得がいくまで分かりやすく説明して下さるし、図書館に行けば疑問を解決するための書物が必ず見つけられます。大学の講義のおかげで歴史に対する苦手意識が薄れたときさえ感じています。どの講義を受講することになったとしても受講するたびに新しい知識を得ることができるはずですよ。朝早くから、また暑かったり寒かったりと大変であるかと思いますが、得られるものは大きいのでがんばってみてください。



週に1日は蔵本キャンパスで各学科の専門科目の講義があります。きっと自分のやりたいと思っていたことが学べると思えますので、一所懸命に勉学に励むと良いと思います。蔵本キャンパスは日本で唯一医学部と薬学部、歯学部が同一キャンパスにあり、様々な分野に関する講義が定期的に行われており学部生も参加できますので興味があれば遠慮せずに参加してみてください。高校までと異なり大学では学生自ら学ぶことが重要です。興味があることには躊躇せず食欲に挑戦し、4または6年間で本当にやりたいことを見つけられるよう、1日1日を大切に勉学に励んでください。



大学生協

保健学科 4年 増井 悠太

生協は、私たちが大学生活を送っていくためのサポート役としてたくさんの場面でお世話になると思います。

新生生の皆さんが大学の多くの講義を受ける上で、これからたくさんの教科書が必要となりますが、生協では学年、学部、学科ごとに毎年必要な教材がセットで売られています。一冊、一冊を探して買うよりも楽ですし、間違えることもありません。さらに生協組合員であれば10%引きで購入することができます。その他の参考書なども分野ごとに整理されているので、商品も探しやすい、お目当てのものが無ければ取り寄せることもできます。大学での勉強は自分で進んでやっていくことが大切なので、うまく利用してほしいと思います。

しかし勉強だけが大学ではなく、長期休暇を利用して観光やテーマパーク、冬になれば温泉にスキーなど、友達と旅行したりすることもこれからあると思います。生協にはそういった旅行のパンフレットも豊富に取り揃えており、そのまま生協を通

して申し込む事もできます。もちろん帰省などの時のバスや航空機のチケットなども生協で購入することができます。その他にも、文房具、白衣、雑誌、お弁当、飲み物なども販売していますし、大学での必須アイテムであるパソコンも生協で購入することができます。このように生協には学生のために必要なものが数多く用意されています。

また、1年次などの時間に余裕があるうちに運転免許も取得しておくことをお勧めします。そこで、生協で教習所の申し込みをすれば、手続きもわかりやすく、簡単に申し込むことができます。なおかつ、お得な特典もあるので運転免許取得を考えている方は生協に話を聞きに行くのがいいと思います。

大学は自分が秘めている可能性を大きく展開していける素晴らしいところですが、生協をうまく利用して、限りある大学生活の中での時間を有意義なものにしてください。



学遊抄

放射線理工学分野 教授 前澤 博



本欄への原稿依頼を、学生時代の思い出で良いからと受けて、いつものように迂闊な自分を反省しきりです。さて、よく言われることですが、人生の進む方向は思いもかけないことに左右されるようです。「陽子と中性子から成る原子核とその周囲を取り巻く電子の規則的な配列、そして核内粒子は壊れ放射線を放出する」、文字で書けばこのようになるが、高校の黒板に描かれた原子構造の模式図に何故か惹かれ、以来、私と放射線の関係が続いている。私の性分が執拗なのか、あるいは視野が狭いのか、いずれにせよおかげで今日があり、物理の先生に感謝の気持ちです。

大学学部時代は原子力研究部というクラブが私の主な活動の場で、原子核物理、放射線測定などの理論・実験に触れ、また原子力の啓蒙のための展示会や意識アンケート調査なども行った。先輩や同輩が、6畳程の部屋に毎晩のように集まり、談論風発、時に罵倒され、泣かされたもしたが、多くは楽しい時を過ごした。ニーチェや西田幾多郎の哲学に傾倒する先輩もいて、夜を徹して議論もし、人生に夢をみた。先輩が突然シベリア鉄道でヨーロッパに旅立ち、理解し難さと羨望が混ざった衝撃を受けた。

大学院時代には特に3人の先生から教えを受け、また貴重な研究仲間と巡り会えた。指導教授から、当時開発された放射光を利用した全国規模の研究プロジェクトへの参加を勧められ、放射線生物学に関わることになる。この先生には、「若い人の脳は吸い取り紙のように全てを吸収するから、際限なく学ぶことができるのですがね。あはは。」と、私共の能力の低さを笑

われていた。プロジェクトの中心におられた教授は、「研究、論文は24時間の休みない仕事」を貫かれていたが、アルコールの入る席も自ら設けられ、海外の研究者や研究の内容など刺激的な話をされた。このプロジェクトには全国から院生や若手教員が参加したが、放射光照射システムの完成までは精密機械の組立作業に近い仕事であり、共に勉強し苦勞した。ここで出会った人々とは、現在も共同研究を続け、私にとって宝である。当時の私のテーマ、バクテリオファージを用いた真空紫外線の生物効果研究、を直接指導していただいた教授からは実験の合間に昼夜を問わずざっくばらんに人生や研究に対する教訓を頂いた。真空中での生物試料照射ということもあり、実験が停滞した時には、「方向は間違っていないから、大丈夫だと思うよ。」と、励まされた。この先生は核酸の専門家だったが、今から30数年前に、「これからは細胞の中で作られるタンパクが重要な研究対象の時代になる」と、高い先見性をもっておられた。テニスや畑の耕し方など先生から手ほどきも受けたが、徳島では一度もラケットを握っていない。

放射線生物学とは予期せぬ機会から付き合うことになったが、先達のように、私も若い人々に学ぶことの楽しさや飛躍のチャンスを与えられればと思っている。



白馬大雪渓入口にて

蔵 本 祭

第24回蔵本祭実行委員長 医学科5年 西川 達哉

第24回蔵本祭では「常々!!KURA.I.MAX」(じょうじょうクライマックス)というテーマのもと、多くの学生に参加してい



ただき、期間中は常に最高潮(クライマックス)な時を過ごすことができました。この度の蔵本祭では、新しい企画を行いました。既存の企画の充実にも力を入れました。特に蔵本祭特有の医歯薬企画である、解剖病理展、栄養展、模擬病院、無料歯科検診、薬学展を充実させたことが成功につながったと考えます。このキャンパスで私達が学んでいることを一般の方々にも知っていただいたり、医学に興味を持っていただくことができ、知的でユニークな蔵本祭の伝統が守れたと感じます。学祭を通じ、学部・学科の枠を超えて協力し合い皆で大きなことを成し遂げるという経験も大変貴重でした。

最後になりましたが、蔵本祭開催にあたりご協力下さいましたすべての皆様に厚くお礼を申し上げます。

栄養展を終えて

第24回蔵本祭栄養展委員長 栄養学科4年 廣田 将和

毎年、好評である栄養展を今年も好評のまま終わらせることができ、本当にうれしく思っています。

「栄養展の委員長をやらない?」と言われたときは、正直に言うと、「今年も成功させることができるのだろうか」、「あまり関わったこともないし…」など不安でいっぱいでした。しかし、尊敬する先輩の「役がヒトを変える」という一言で、自分なりに全力でやってみようと思い行動しました。いたらない点も多く、委員のみんなには迷惑ばかりかけた気もしますが、最後までついてきてくれて本当に感謝しています。また、蔵本祭実行委員の方々のサポートもすごい励みとなりました。

今回、栄養展を体感したことは、なにかをやり遂げるためには、まわりの協力が不可欠なことと、それに頼りきるのではなく自分自身も全力でやることです。今後もこの機会です。

を最大限に生かして生活していこうと思います。

最後に、栄養展をやり遂げた後の委員のみんなの達成感に満ち溢れた顔は、私の大学生活の中の宝物となりました。



模擬病院からの贈り物

第24回模擬病院委員長 看護学専攻3年 野崎 まり

今年度も保健学科では例年通り「模擬病院」を実施しました。内容としては蔵本祭に来てくださった方々に血圧・視力などの



簡単な健康検診、生活習慣病についての展示、看護・放射・検査による保健学科3専攻の紹介、人形を使ったAED・心肺蘇生法の体験実習、ドナーカードの配布などを行いました。参加してくださった皆様には少しでも自分自身の健康状態に関心と興味を持ち、最近重視されている生活習慣の見直しと尊い命について考える機会として頂ければ嬉しいです。私達自身も実施していく中で多くの人と接することができて学ぶことも多くあったように思います。このことは今の学習にも繋がり、とても貴重な経験となりました。最初は2年生主体の企画ということもあり、それまで学んだ技術や知識だけでは不安なこともありましたが先生方や事務の方、先輩方、多くの方々の御協力もあり最後まで成し遂げることが出来ました。ここで学んだことをこれからの学習にも活かして頑張っていきたいと思っております。御協力して下さいました皆様、本当にありがとうございました。

徳島医学会報告

■ 第237回徳島医学会学術集会（平成20年度 夏期）

生理機能学分野 教授 吉崎和男

第237回徳島医学会学術集会が平成20年8月3日(日)に阿波観光ホテルで開催された。今回の担当は胸部・内分泌・腫瘍外科分野（丹黒章教授）と生理機能学分野（吉崎）である。午前のシンポジウムはセッションI「分子機能情報を活用した医学生理学研究の展開」と題し、医学系3名がNMR、MRIを用いた研究・診断等を講演し、工学部・木内陽介教授が超音波ドップラを用い血流速度パターンに加齢変化について講演された。続いて保健科学部門・細胞・免疫解析学分野・細井英司教授が、「ABO血液型の抗原および遺伝子の解析と臨床的応用」と題し、教授就任記念講演を行った。昼食をはさみ28題のポスター発表があり、熱心に討議がなされた。午後からは第20回徳島医学会賞を受賞された首藤恵泉先生（臨床栄養学分野）と鶴尾美徳先生（徳島市医師会）の記念講演が催された。午後のシンポジウム・セッションIIは「がん診療連携最前線」と題し、基調講演としてNTT東日本関東病院・村田豊先生に「病診連携とクリニカルパス」についてご講演頂いたあと、徳島における現状を関係機関の先生方にご講演頂いた。講演終了後の懇親会では徳島大学医学部と徳島県医師会の親睦を深めて、学術集会は無事に終了した。ご協力頂いた方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

ウム・セッションIIは「がん診療連携最前線」と題し、基調講演としてNTT東日本関東病院・村田豊先生に「病診連携とクリニカルパス」についてご講演頂いた



あと、徳島における現状を関係機関の先生方にご講演頂いた。講演終了後の懇親会では徳島大学医学部と徳島県医師会の親睦を深めて、学術集会は無事に終了した。ご協力頂いた方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

■ 第238回徳島医学会学術集会（平成20年度 冬期）

救急集中治療医学分野 教授 西村匡司

第238回徳島医学会学術集会（平成20年度冬期）は、平成21年2月15日に長井記念ホールで開催されました。この学術集会は毎年夏と冬に医学部と徳島県医師会が主催して開催されるものです。今回、医学部からは医療栄養科学講座代謝栄養学分野と病態情報医学講座救急集中治療医学分野が担当しました。午前中はシンポジウム「重症患者の全身管理はいかにすべきか」を総合題目とし、「重症患者の栄養管理」（救急集中治療部：眞野暁子）、「重症患者の血糖管理」（岡山大学病院集中治療部：江木盛時）、「重症患者の口腔管理－ICUにおける専門的口腔ケアの取り組み－」（口腔保健教育学分野、吉岡昌美）、「周術期術後患者の栄養管理」（代謝栄養学分野：武知浩和）の諸先生が、

をされました。午前はさらに、ポスターセッションが2会場に分かれて発表がありました。今回から徳島県医師会の御好意により、卒後臨床研修医を対象にした若手奨励賞が設けられ、従来の徳島医学会よりも若い先生達が活発に発表を行っていました。



午後は第21回徳島医学会賞授与式に引き続いて、Md. Golam Hossain、宮内吉男両氏による受賞記念講演が行われました。午後のシンポジウムは公開シンポジウムで市民の皆様も多数参加され、熱心に講演を聞いていらっしゃいました。総合題目は「がんと栄養」で「がん予防のための栄養と身体活動」（臨床栄養学分野：竹谷豊）、「がんと栄養不良（がん悪液質）－消化器がんを中心に－」（消化器内科学分野：高山哲治）、「がん治療と副作用」（医薬品機能解析学分野：土屋浩一郎）、「がん治療時の栄養管理」（徳島大学病院栄養管理室：松村晃子）の講演があり、活発な討論が行われました。公開シンポジウムは第230回から始まり、市民の皆様にも周知されるようになり、今回もほぼ満席でした。



重症患者の栄養を中心に新しい知見を紹介されました。次いで、臨床腫瘍医療分野の近藤和也教授が「縦隔腫瘍に対する治療戦略」と題して教授就任記念講演

医学部行事予定（平成21年4月～平成21年9月）



- 4月6日(月) 徳島大学入学式、医学部共通新入生オリエンテーション（13：30～長井記念ホール）
医学部授業開始
- 4月7日(火)～9日(木)
医学部新入生学科別オリエンテーション
医学科、栄養学科（4月7日・9日）、
保健学科（4月7日・8日）
- 4月8日(水) 学生定期健康診断医学部1年生
- 4月9日(木) 新入生授業開始（保健学科専門科目）
- 4月11日(土) 医学部新入生研修（於：長井記念ホール）
- 4月13日(月) 新入生授業開始（全学共通教育科目）

- 4月20、21、22日
学生定期健康診断
医学科・栄養学科2年生以上
- 4月27、28日
学生定期健康診断
保健学科2年生以上
- 7月下旬
西日本医科体育大会（8月中旬）
- 8月初旬
徳島大学オープンキャンパス（学部説明会）
午前：栄養学科、午後：保健学科
医学部保健学科看護学専攻体験入学
徳島大学オープンキャンパス（学部説明会）
午前：医学科
*例年、8月第一週目の木、金に実施しています。

学友会活動

平成20年度

●●● 運動部 ●●●

●●● 文化部 ●●●

	クラブ名	部長		クラブ名	部長
1	硬式野球部	中西 秀樹	11	硬式庭球部	福井 清
2	ソフトテニス部	武田 英二	12	バドミントン部	土井 俊夫
3	ラグビー部	中西 秀樹	13	サッカー部	荒瀬 誠治
4	卓球部	香美 祥二	14	バレーボール部	佐野 壽昭
5	柔道部	永廣 信治	15	バスケットボール部	泉 啓介
6	弓道部	石村 和敬	16	空手道部	丹黒 章
7	剣道部	安井 夏生	17	陸上競技部	福井 清
8	準硬式野球部	島田 光生	18	ゴルフ部	曾根 三郎
9	合気道部	上野 淳二	19	フットサル部	阪間 稔
10	水泳部	中屋 豊			

	クラブ名	部長
1	軽音楽部	中西 秀樹
2	外国語研究会	塩田 洋
3	栄養学研究部	宮本 賢一
4	茶道部	中堀 豊
5	室内楽同好会	大下 修造
6	手話サークル	香川 典子
7	地域医療研究会	谷 憲治

※平成21年度の各クラブの学生責任者は未定ですので、入部等の問い合わせについては、学務課（学生指導担当：☎633-7030）へ連絡してください。

数字で見る医学部

～平成21年3月卒業者の進路状況～

H21.2現在

進路先	合計
徳島大学医学部・歯学部付属病院	21
徳島大学医学部・歯学部付属病院/高松赤十字病院	1
徳島赤十字病院	7
阿南共栄病院	3
大阪大学医学部付属病院	3
京都大学医学部付属病院	2
名古屋市立大学病院	2
徳島市市民病院	2
徳島県立中央病院	2
上尾中央総合病院	2
大樹会総合病院回生病院	3
兵庫県立淡路病院	2
兵庫県立尼崎病院	2
名古屋第二赤十字病院	1
自治医科大学医学部付属病院	1
高知赤十字病院	2
高知医療センター	1
健康保険鳴門病院	1
黒部市市民病院	1
京都医療センター	1
加古川市市民病院	1
岡山済生会総合病院	1
雄勝中央病院	1
宇部興産中央病院	1
泉大津市立病院	1
麻生飯塚病院	1
N T T 東日本関東病院	1
神綱病院	1
甲南病院	1
神戸大学医学部付属病院	1
神戸大学病院（2年目）	1
済生会横浜市南部病院	1
静岡市立静岡病院	1
島根県立中央病院	1
市立豊中病院	1
鈴鹿中央総合病院	1
高松日赤病院	1
武田総合病院	1
多根総合病院	1
茅ヶ崎徳洲会総合病院	1
中部労災病院	1
東京女子医・東医療センター	1
西神戸医療センター	1
日生病院	1
東名厚木病院	1
日高病院	1

兵庫県立淡路病院	1
兵庫県立尼崎病院	1
府中病院	1
ヘルランド総合病院	1
松阪市市民病院	1
松山赤十字病院	1
丸太町病院	1
室蘭新日鉄病院	1
八尾徳洲会総合病院	1
横浜南共済病院	1
六甲アイランド病院	1
小計	98
未定	6
小計	6
合計	103

進路先	合計
マツモトキョシ	2
株式会社 加ト吉	1
日本食研	1
日清医療食品	1
タリーズコーヒージャパン株式会社	1
株式会社グリーンハウス	1
JST イノベーションサテライト徳島	1
株式会社 城南給食センター	1
大日本住友製薬	1
医療法人青峰会 くじらグループ	1
介護老人福祉施設藤香苑	1
健祥会	1
日本赤十字社徳島県支部	1
株式会社阿波銀行	1
株式会社コウエイハウジング	1
日本生命保険相互会社	1
香川大学	1
兵庫県職員	1
就職先未公表	1
小計	20
大学院進学	
徳島大学栄養生命科学教育部	22
北里大学医療系研究科	1
大阪教育大学	1
小計	24
未定（就職予定）	2
未定	6
小計	8
合計	52

進路先	合計
徳島大学医学部・歯学部付属病院	24
神戸大学病院	8
医療法人至誠会梅田病院	1
医療法人凌雲会福次整形外科病院	1
大分赤十字病院	1
大阪市立大学医学部附属病院	1
大阪大学医学部附属病院	2
大阪府済生会千里病院	1
大阪府立母子保健総合医療センター	1
岡山大学医学部・歯学部附属病院	1
香川大学医学部附属病院	1
香川労災病院	1
金沢大学付属病院	1
癌研究会有明病院	1
関西医科大学附属病院	1
京都大学医学部附属病院	1
神戸赤十字病院	1
国立がんセンター	1
財団法人倉敷中央病院	1
島根大学医学部附属病院	1
高松赤十字病院	1
千葉西総合病院	2
東京大学医学部附属病院	2
徳島県立病院	1
徳島厚生連阿南共栄病院	1
徳島赤十字病院	1
独立行政法人国立病院機構京都医療センター	1
鳥取大学医学部附属病院	1
西神戸医療センター	3
日本赤十字社医療センター	1
兵庫医科大学病院	2
横浜市立大学付属病院	1
琉球大学医学部附属病院	1
広島市病院事業職員	1
徳島県職員	1
丸亀市役所	1
鳴門市役所	1
三好市役所	1
板野町役場	1
小計	75
進学（徳島大学大学院保健科学教育部）	4
進学（徳島大学助産学専攻科）	5
進学（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）	1
進学（島根県立看護短期大学 助産学専攻科）	1
進学（東京大学大学院医学研究科）	1
進学（広島大学大学院地域・学校開発学）	1
未定	4
小計	17
合計	92

進路先	合計
徳島大学医学部・歯学部附属病院	5
大阪大学病院	1
J A 尾道総合病院	1
J A 広島総合病院	1
今村病院	1
大阪医療センター	1
川島病院	1
北野病院	1
近畿大学病院	1
倉敷中央病院	2
健康保険鳴門病院	1
済生会今治病院	1
産業医科大学病院	1
滋賀大学病院	1
島根大学病院	1
社会保険神戸中央病院	1
先端医療センター	1
高木病院	1
対馬いざはら病院	1
徳島検診クリニック	1
徳島赤十字病院	1
鳥取大学病院	1
日赤和歌山医療センター	1
日本赤十字社長崎原爆病院	1
広島大学病院	1
福岡記念病院	1
ヘルランド総合病院	1
山口大学病院	1
三重大学病院	1
三加茂田中病院	1
愛媛県職員	1
小計	36
進学（徳島大学大学院保健科学教育部）	1
未定	6
小計	7
合計	43

進路先	合計
大阪労災病院	1
香川大学医学部	1
共立湖西総合病院	1
近畿大学病院	1
神戸徳洲会	1
済生会和歌山病院	1
徐クリニック ART センター	1
屋島総合病院	1
小計	8
進学（徳島大学大学院保健科学教育部）	4
進学（徳島大学大学院医学科学教育部）	3
未定	3
小計	10
合計	18

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

中 田 賞

第 55 回医学科卒業生 (平成 21 年 3 月卒業)
堀田 英美香



この度は中田賞という名誉ある賞を頂くことができ、大変光栄に思います。6 年間熱心にご指導いただいた先生方や、周りで支えてくれた友人に大変感謝しております。今後は医学の発展に寄与すべく、日々努力していきたいと思ひます。

看護学専攻賞

第 4 回看護学専攻卒業生 (平成 21 年 3 月卒業)
清澄 浩子



この度、看護学専攻賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。4 年間ご指導下さいました先生方をはじめ、支えてくれた家族や友人に深く感謝しております。今後も人との関係を大切にしながら、初心を忘れず日々努力して参りたいと思ひます。

す だ ち 賞

第 4 回検査技術科学専攻卒業生 (平成 21 年 3 月卒業)
坂本 光崇



この度は名誉あるすだち賞を頂くことができ、心から感謝申し上げます。先生方をはじめ、多くの方々の支えのおかげだと感じております。この受賞を励みとし、日々努力し、自己研鑽していきたいと思ひます。

医学部優秀教育賞

医学優秀教育賞：今中 秀光(救急集中治療医学 准教授)
栄養学優秀教育賞：伊藤美紀子(分子栄養学分野 助教)
保健学優秀教育賞：阪間 稔(放射線理工学分野 助教)
*医学科、栄養学科、保健学科の教育及び学生指導に貢献した人を表彰する賞です。



医学部優秀教育賞・Best Teacher of the Year 2008 賞 受賞者

前列左から：伊藤美紀子、今中秀光、阪間稔
後列左から：二宮保健学科長、松本前医学部長、中村教泰、栃谷史郎、山本浩範、北岡和義、香川典子、宮本前栄養学科長、泉前医学科長 (敬称略)

児 玉 賞

第 42 回栄養学科卒業生 (平成 21 年 3 月卒業)
坂東 知世



この度は、児玉賞という名誉ある賞を頂くことができ、大変光栄に感じております。4 年間を通じてご指導下さいました先生方をはじめ、これまで支えてくださった多くの方々に心から感謝申し上げます。今後もこの受賞を励みとし、精進してまいりたいと思ひます。

放射線技術科学専攻賞

第 4 回放射線技術科学専攻卒業生 (平成 21 年 3 月卒業)
伊藤 直起



この度は放射線技術科学専攻賞という名誉ある賞を頂くことができ、心より感謝申し上げます。日々の努力がこういった形で評価され、誠にうれしく思っております。今後はこの賞に恥じないよう、先生方から学んだことを患者さんに還元していくことに努めてまいります。

竹 内 賞

第 3 回助産学専攻科修了生 (平成 21 年 3 月修了)
森田 智子



この度は竹内賞という名誉ある賞をいただくことになり、心から感謝申し上げます。助産学専攻科では、母子と家族に寄り添う助産師としての精神を学ぶことができました。支えて下さいました先生方や友人、家族には大変感謝しております。この受賞を更なる励みとし、日々精進してまいります。

医学部優秀学生賞

医学科 6 年：竹森 俊幸 保健学科 4 年：湯村 義喬
富田 諒太郎 3 年：山田ひとみ
河南 真吾 2 年：野崎 まり
医学部ソフトテニス部 2 年：河西あゆみ
1 年：近間奈津美
*各種活動において顕著な功績があった学生又は団体を表彰する賞です。 保健学科クリーン対策委員

Best Teacher of the Year 2008 賞

医 学 科：中村 教泰 (顕微解剖学 准教授)
北岡 和義 (生理機能学 助教)
栃谷 史郎 (機能解剖学 助教)
栄養学科：山本 浩範 (臨床栄養学 助教)
保健学科：香川 典子 (病理解析学分野 教授)

* Best Teacher of the Year 賞は学生の投票で決まる賞です。

退職者ご挨拶



眼科学分野 教授 塩田 洋

私は 3 月末をもち定年退任致します。代わって大勢の新入生が入って来るのは喜ばしい事であります。私は大学紛争の激しかった昭和 43 年 3 月徳島大学を卒業し 2 年を高知で、昭和 48 年から 50 年の 2 年を British council scholar としてロンドン大学へ、後は母校で診療・研究・教育に携わり充実したこれまででした。入学時は英語が話せず外国語研究会へ、英語が話せだすと留学と言う夢を抱くようになり実

現しました。この他柔道部と自動車部にも属し、多くの友人を得ました。徳島といえどもグローバル化の影響を受けています。「学生さん、クラブに属し、沢山の友人を得、卒業までに英会話をマスターして下さい。」20 歳前後の夢は正夢になります。皆さんはそれだけの可能性を秘めています。大きな夢を持ち、将来世界に向かって羽ばたかれん事を願っています。最後になりましたがこれまでのご支援、ご協力に感謝申し上げますと共に、徳島大学の益々のご発展を願っています。

転出者ご挨拶



浜松大学保健医療学部作業療法学科教授 藤木 通 弘

浜松大学に今年度より新設された、保健医療学部の作業療法学科の教授として、平成21年4月1日付けで着任いたしました。私は平成19年11月より、統合生理学分野の勢井宏義教授のもとで研究・教育に従事してまいりました。短い間ではありましたが、徳島大学での経験を通じて、大変多

くものものを得る事が出来たと思っております。ほんとうにありがとうございました。また、このたびの機会を与えてくださった勢井教授をはじめ、徳島大学在職中にお世話になった方々にこの場を借りて感謝を申し上げます。教育、研究の両面においてさらに力を尽くして行く所存ですので、これからも御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



川崎医科大学脳神経外科学講座教授（川崎医科大学付属病院脳神経外科部長）宇野 昌 明

平成21年4月1日付けで川崎医科大学脳神経外科学講座主任教授として転出しました。徳島大学では昭和58年卒業後、関連病院勤務および外国留学の5年間以外の約21年間にわたり勤務させていただきました。その間の最大の思い出は永廣信治教授が立ち上げられた脳卒中センターに参画できたことです。脳神経外科の先生方の獅子奮迅の働きと他科の先生方の多大な協力により、大学病院脳卒中センターとして、

日本に誇れる運営ができていると思っています。この経験を生かして新任地の川崎医科大学病院の脳卒中センターの外科部門として実績を上げていきたいと思っております。また私と一緒に赴任していただく脳神経外科疾患のスペシャリストの仲間たちと一緒に力を合わせて大学の臨床・教育・研究に励みたいと思いません。

最後になりましたが、徳島大学医学部のさらなるご発展をお祈り申し上げ、私の退任の挨拶とさせていただきます。



京都産業大学総合生命科学部動物医科学科 教授 松本 耕 三

徳島に着任してから24年が経ちました。その間、何度か徳島を去る機会がありましたが、ご縁があったのか去りもせず、長期の滞在となりました。動物実験施設のグラウンドプラン作成にあたり、日本一、快適で省エネな動物実験施設を作ろうと考え、今あるシステムが完成しました。他の大学の多くの動物実験施設は玄関を入るなり独特の臭いの洗礼を受

けますが、本システムは20年以上を経ても未だに我が国では図抜けた快適なシステムを提供しています。

そのご縁もどうやら切れるときがきたようです。今度、京都産業大学の施設学科立ち上げへの尽力を依頼され、転出することに致しました。京都はAncestral Homelandなので本来の縁の土地に戻ります。最後になりましたが長らくお世話に相成りました。皆様のご多幸をお祈りしております。

新任准教授紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属
21. 2. 1	採用	阪上 浩	代謝栄養学



徳島大学は、学校教育法第69条の3第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準」を満たしていると認定されました。

(平成19年3月28日)

● 認証評価機関

独立行政法人大学評価・学位授与機構

● 認証期間 7年間

(平成19年4月1日～平成26年3月31日)

編集後記



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。この2月、映画「おくりびと」がアカデミー賞外国語映画賞を受賞しました。死生観は文化そのものなので、アメリカ人がどのようにこの映画を理解したのか興味深いところです。でも、その前に、死ぬということは、どの生命にも普遍的で逃れることのできない真実であるはずなのに、私たち現代の日本人は、日常生活の中で、ちゃんと「死」を意識し、向かい合い、理解しようとしているのでしょうか？医学に携わる私たちには、診断治療技術が急速に進歩している今だからこそ、しっかりと死生観が求められているように強く感じます。

(勢井)

発行 徳島大学医学部

編集 医学部広報委員会

広報委員 勢井宏義(委員長)、泉 啓介、曾根三郎、金山博臣、二川 健、田村綾子、森口博基、宮本敏克、大浦雅博、安倍知紀、増井悠太

本誌へのご意見・ご要望は、(第1総務係・榎谷) E-mail: isysoumu1k@jim.tokushima-u.ac.jp まで
 お願いします。なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel: 088-633-9118 Fax: 088-633-9028

URL <http://www.hosp.med.tokushima-u.ac.jp/university/servlet/index>